

# 園長かわら版

風通しをよくし、職員のチーム力を高め、楽しい職場

2020年1月9日

日南・飢肥カトリック幼稚園

文責 佐藤 泰信

## 今年もよろしくお祈いします！

### まずは「保育の基礎」をしっかりと

2020年のスタートにあたり、初心に戻る気持ちで「保育の基礎」を再度見つめてみました。以下職員会(1月6日)で確認した内容です。

☆☆☆☆

### 「愛されていると実感できる教育保育」の土台

本園は「神様に愛されている子」をスローガンに、子ども達一人一人が「自分は愛されていると実感できる」ことを大切にしています。その大前提となるのが「ていねいな言葉遣いと態度」ではないでしょうか。

○子どもの気持ちを細やかに読み取り、応答的に対応する。

○むやみに手や口を出さず、「できることを奪わない」見守りの姿勢を大切にする。

などは、日常の教育保育の中でよく目にする先生方の姿。本園のよさ。ただ、「現状維持は衰退の第一歩」「これでよし」と思ったときから劣化は始まります。形式的なものではなく、一人一人の実態に応じた深まりのある、つまり「ていねいな」ものになるよう、さらに研修を重ねていく必要があります。

### 「ただ世話をされているだけでは、 子どもは健全に育たない」

子どもにとって遊びは学び。そして、遊びは子どもが自発的に関わるものでないと「本当の遊び」にはなりません。保育者が全てリードするのではなく、「興味をそそる環境」をもって子どもの「やりたい」を引き出す。「子どもの自発性を引き出す環境設定」ができてこそ、子どもを健全に育てることができると考えられます。

### 指示語・否定語・禁止語をできるだけ抑える

成長の大きな目標のひとつは、「自分で考えて行動できる」です。「ダメだよ！」ではなく、「なぜいけないのか」を伝えたり、「どうすればいいのか」提案したりしながら「自分で考えられる」よう導く。たとえ未満児さんでも、しっかりと向き合っていけば必ず伝わると言われています。

### 決め手は同僚性(職員同士の連携のよさ)

普段の声かけや態度のクセは、自分ではなかなか気づき難いもの。裏面の具体例を参考に、みんなで気をつけていきましょう。ただ、現実はなかなか厳しいですよ。だからこそ、考えをお互いに伝え合い、一緒に考えましょう。大丈夫、ウチは多様で豊かな人材に恵まれているのですから(\*^\_^\*)



# 「ていねいな言葉遣いと態度」が最低限の基本 保育の問題は、ほぼ「言葉と態度」の荒さから

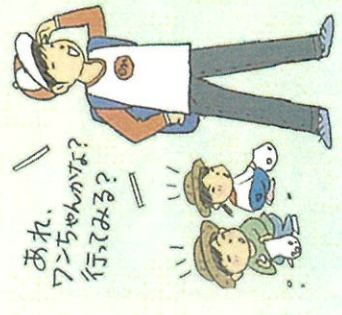
保育者の専門性が疑われる話として出るのは、その多くが「言葉」と「態度」の荒さに起因しています。「給料への不満」「人手不足で多忙」など、確かに厳しい実態はあります。しかし、そういうストレスを言い訳にはできません。それはすべての業種と同じです。ていねいすぎる言葉はかえって違和感があります。保育において「安全に預かること」が子どもを傷つけそうな言葉遣いや態度は示さない。保育において「安全に預かること」が身体的な最低限の原則なら、「ていねいな言葉遣いと態度」が精神面での最低限の基本です。

## 言葉遣いと態度 0・1・2歳児への対応例

早くしてほしいとき

**雑な保育**  
「早く!!」(怒)  
「先に～しちゃうからね!!」  
「怖い人、来るよ!!」  
「Aくん、いつも遅い!!」  
「みんな困ってるでしょ?」

**ていねいな保育**  
「～が終わったら、…しようね」(見通しを持たせる)  
「友達(や先生)が、待ってるよ」(次の活動に期待を持たせる)  
「あ、あれはなんだろう?」(別の「楽しみ」を示す)



オムツ替えや、移動のシーンで

**雑な保育**  
いきなり無言で抱き上げる、手首をつかんで引っばる。  
「オムツ、濡れたかな? きれいにしようね」  
「～するから、外に行こうね」(声をかけてから行動する)

**ていねいな保育**  
「～が抱き出たかな? おむつかえに行こうね」



泣き続けている子に

**雑な保育**  
「いつまでも泣いてないの!」  
「男の子なのに、おかしいよ」  
「トイレに閉じ込めるからね」(泣いている理由がわかれば言葉にしてみる)  
「泣きたいね。いっぱい泣いていいからね」(気持ちに共感する)

**ていねいな保育**  
やさしく抱きしめる(身体接触で落ち着かせる)  
「～がいやだったね」(泣いている理由がわかれば言葉にしてみる)  
「泣きたいね。いっぱい泣いていいからね」(気持ちに共感する)



子どもが失敗したとき

**雑な保育**  
「だからいったのに」  
「またやったの? なんて?」  
「本当に赤ちゃんだね」  
「はあ…」(怒)  
「むかつく。嫌い」  
「たたく、突き飛ばす」

**ていねいな保育**  
「大丈夫、大丈夫だよ」(安心させる)  
「～の後に」  
「じゃあ今度は～しようか」(気持ちを立て直す)  
「状況によっては楽しい歌を歌うなど(気持ちを明るくさせる)。」



友達をたたいたとき

**雑な保育**  
「どんなに痛いかな、たたこうか?」  
「Aくんが悪い! ごめんねは!」  
「たたいたらダメなんですよ?」  
「Bちゃん泣いててかわいそう。先生、いつもいってるけど、どうしたらいいと思う? なんていえないの?…」  
(くどくど、話し続ける)

**ていねいな保育**  
「～が嫌でたたいたの?」(まず、気持ちを理解しようとする)  
「～の後に(発進に際して)」  
「嫌なことはやめてっていうとわかってもらえるよ」(友達との関わり方を伝える)  
「ごめんねっていう?」(謝る方法を伝える)



食の進まない子に

**雑な保育**  
「食べないと大きくなれないんだからね」  
「あとでおなかすかすいても知らないよ」  
「じゃあ、おやつもあげない」  
「口に押し込む」

**ていねいな保育**  
「これ、～だね、おいしそう♪」  
「これ食べると、力が出るんだよね」(食べなくなる働きかけ)  
「おなかすいてないんだね。じゃあ、もう片づけようか?」(共感し、提案する)



雑な保育、いい加減な保育は「本人」だけではなかなか気づけず、修正もしにくい。施設のリーダーの社会的責任感と、行政の本気の援助、そして周囲の妥協しない気持ちがあれば初めて、誇りある保育は維持できるのだと思います。